

令和3年度東北地方発明表彰について

令和3年11月5日

地方発明表彰は、社団法人発明協会(現 公益社団法人発明協会)により大正10年に創設され、各地方において優秀な発明を完成された方々、実施化に尽力された方々、発明等の指導、奨励、育成に貢献された方々を顕彰することにより、発明の奨励・育成を図り、科学技術の向上と地域産業の振興に寄与することを目的として、毎年実施されています。

今年度は、本県から下記のとおり受賞が決定しました。

受賞名	受賞者	発明名称	区分	概要
1 公益社団法人 発明協会会長賞	三菱電機エンジニアリング株式会社メディアシステム事業所 副所長 平 謙二 同 郡山支所 主査 浜津 一信 三菱電機株式会社開発本部 引間 孝典	三次元レーザスキャナ一体型カメラ	意匠	従来の監視カメラは、明らかにそれとわかる形状で、サイズも大きく無骨な印象だった。応募意匠は、駆動部とカメラ部の面を平行にするとキューブ型となり、景観を重視した斬新な意匠を実現した。駆動部を支持するベース部は円錐から四角錐に変化するイメージのスリムな形状とした。従来の三次元レーザスキャナ一体型カメラからの質量低減率は24%、体積低減率は56%、従来の監視カメラからでも質量低減率は17%、体積低減率46%となり、大幅な小型軽量化を達成した。
2 一般社団法人福島県 発明協会会長賞	小松技術士事務所 所長 小松 道男	ポリ乳酸肉薄容器のCO ₂ 超臨界射出成型法	特許	植物由来・生分解プラスチック「ポリ乳酸」は、原料をでんぷんやサトウキビ搾汁と乳酸菌とする生分解性の高分子素材で、地球温暖化ガス削減、海洋プラスチックごみ削減に奏効する世界的に大量の需要が見込まれている。ポリ乳酸は、原料コストが化石燃料由来のプラスチックよりも高く、熔融時の流動性が極めて悪いため射出成型には適用できず、シート、フィルムとしての利用等に留まっている。そこで、ポリ乳酸の流動性を改善するために溶融したポリ乳酸にCO ₂ を超臨界状態で高濃度で融解させることで流動性が改善することを発見し、高濃度で溶解させるための専用射出成型機を開発した。
3 発明奨励賞	福島県産業振興センターエネルギーエージェンシーふくしま コーディネータ 渡部 修 会津若松市健康福祉部障がい者支援課 後藤 裕子	柿渋の渋抜きおよび渋戻り制御技術	特許	柿の渋みの原因であるタンニンには、水酸基から水素イオンを乖離することで水溶性となり、渋みを感じると考えられ、従来の渋抜きは何らかの処理によりタンニンを不溶性に変化させることで渋みを感じさせなくするものである。本発明は、柿果実に分子量3,000～5,000のコラーゲンペプチドを少量加え、室温で混合するだけという、短時間かつ簡単な操作により、柿の風味を損ねず渋抜きをすることができ、さらに過熱により渋戻りを抑制することができる。
4 発明奨励賞	住友ゴム工業株式会社白河工場 生産技術課課長代理 松永 章弘 同 工務課 工作班 今井 岳志	特殊吸音スポンジ貼付け工程の研掃技術発明	特許	タイヤノイズを低減するために、当社独自開発の特殊吸音スポンジがある。通常タイヤ内面表層には、生産設備に使用されるゴム部材との剥離性を高めるための離型層が形成されている。特殊吸音スポンジを貼付けるために離型層を除去する工程を研削という。低燃費タイヤは、構造上サイド部の剛性が緩和され、フラン幅よりビード部の感覚が小さくなるため、フラン両側面の押さえ板とビード部が接触して、ビード部が損傷する工程課題があった。本発明は、フラン軸受け部に両側面の押さえ板が独立回転するベアリング機構を設けることにより、ビード部を損傷させない特殊吸音スポンジ工程の研掃技術を確立した。
5 発明奨励賞	パナソニック株式会社インダストリアルソリューションズ社 課長 北井 佑季 熱研化学工業株式会社 研究員 藤原 弘明 パナソニック株式会社インダストリアルソリューションズ社 課長 齋藤 宏典	樹脂組成物、プリプレグ及び積層板	特許	近年、電子機器に搭載されるプリント基板には、より高い周波数での高速伝送、伝送損失低減、配線板における高多層化・微細配線化に対応したプリント基板が要求されるようになった。それに伴い配線板に使用される絶縁材料は、優れた低誘電特性を維持しつつ、より高いレベルでのガラス転移温度、優れた耐熱性、金属との密着性が求められていた。本発明は、絶縁材料に使用されるポリフェニレンエーテル樹脂組成中のポリフェニレンエーテルと硬化反応する特定2種類の架橋剤を含有することで、優れた誘電特性を維持し、優れた耐熱性、金属との密着性、高いガラス転移温度等のの特性を兼ね備える可能にする金属張積層板及びプリント配線板を提供する。

《表彰式》 令和3年11月19日(金)14:00から、ホテルメトロポリタン盛岡 本館(盛岡市盛岡駅前通1-44 (019-625-1211))

《問い合わせ先》 一般社団法人福島県発明協会(電話 024-959-3351)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 『地方発明表彰』とは ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

■主催

公益社団法人発明協会

文部科学省、特許庁、中小企業庁、日本弁理士会、各経済産業局、担当県(今年度の東北地方の担当県は岩手県)

各地方における発明の奨励・育成を図り、科学技術の向上と地域産業の振興に寄与することを目的として、大正10年より実施。

全国を8地方に分け、各地方において優秀な発明、考案、意匠を完成された方々、発明等の実施化に尽力された方々、発明等の指導・奨励・育成に貢献された方々の功績を称え顕彰。

■表彰

□発明等に関する表彰

・特別賞【文部科学大臣賞、特許庁長官賞、中小企業庁長賞、東北経済産業局長賞、公益社団法人発明協会会長賞、日本弁理士会会長賞】

・県発明協会会長賞

・発明奨励賞

□実施に関する表彰

・実施功績賞

上記特別賞の対象となった発明等が法人の場合に、その実施化に功績のあった法人代表者に贈呈(発明者等と代表者が同一の場合は除く)

□発明奨励に関する表彰

・奨励功労賞:発明協会事業を通じ、発明の指導、奨励、育成に多年にわたり尽力し、顕著な功績がある方に贈呈

一般社団法人 福島県発明協会
電話 024-959-3351